



園 芸 【ブロッコリーを作ろう】

JA兵庫みらい
営農経済部 あぐり創生課
TEL 0790-47-1282
FAX 0790-47-1674
2025. 7月号

苗作り（7月下旬播種）

ポット育苗の場合、1つのポットに3粒程度の種をまき、1株になるよう間引きながら、本葉が5～6枚程度になるまで育てましょう。（セルトレイの場合は1つのセルに1粒ずつ、本葉3～4枚程度）

●水やりは朝・昼を中心に行い、夕方には少し乾き気味で管理しましょう。

●朝陽が当たる場所で行い、水はけ・風通しを良くしておきましょう。

畑の準備

植え付けの2週間前までに土作りを行いましょう。（散布例：セルカ 100 g/m²、牛ふん堆肥 4 k g /m²）1週間前を目安に元肥を施用してうねを作りましょう。（元肥施用例：園芸化成 160 g/m²、マルチサポート 40 g/m²）

●湿害に弱い作物ですので、水はけの悪い圃場では排水用の溝を作りましょう。

定植（8月中下旬頃）

十分に間隔を開けて浅めに植え付けて下さい。

●うね幅 1 2 0 ～ 1 4 0 c m、株間・条間 3 0 ～ 4 0 c m の 2 条千鳥植えにすると、管理や収穫が効率良くなります。

追肥

定植2週間頃に1回目、さらに2週間後（小さな花蕾ができた頃）に2回目の追肥を行います。2回目の追肥の際、うねの肩土を株元に土寄せしておきます。（追肥 1・2 回目施用例：園芸化成 40 g/m²）

●追肥後は畦間（谷）灌水を行うと肥効が上がります。灌水が行えない場合には雨の前に追肥するなど工夫をしてみてください。

収穫（10月中下旬頃）

花蕾の直径が 1 0 ～ 1 5 c m 程度になると収穫できます。花が咲いてしまうまでに収穫鎌等を使い収穫しましょう。

害虫管理

●キャベツと同様、ヨトウムシ、アオムシ・コナガ等の食害には要注意です。葉裏に卵を産み付ける習性がありますので、ふ化するまでに取り除きましょう。定植前から収穫期まで防除を行い、防除の際は葉裏までしっかりと薬剤を散布することで、防除効果がさらに高まります。

水 稲

【中干しと溝切り ～生育後期の水管理に向けての重要な作業～】

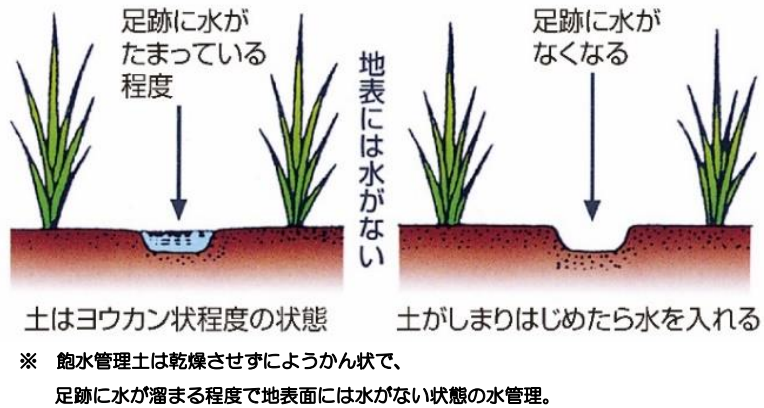
今回は中干しと溝切りについて説明します。それぞれ水稻栽培において、稲の生育を調整し、品質の良いお米を収穫するためには重要な作業となります。

	中 干 し	溝 切 り
期待できる効果	・過剰な分げつ（無効分げつ）の発生を抑制する。 ・土中への酸素供給と、土中の有害ガスの放出が促され、根の活性が高まる。 ・田面が適度に締まり、計画的に収穫作業ができる。	・速やかな入排水ができる。 ・秋の長雨時には停滞水をスムーズに排水できる。 ・収穫前の遅めの落水や機械収穫の条件づくりができる。 ・開花期や収穫前に乾燥した場合、「走り水」により登熟向上を促す。
開始時期	・収穫時目標穂数の80%の茎数（分げつ）になったら開始する。うるち米の場合、坪60株植えて1株当たりの目標穂数を23本（山田錦は20本）とすると、中干し開始時の茎数の目標は、株当たり16～18本となります。	・中干し開始後、土壌が少し硬くなったら行う。  乗用型、田植え機装着型の溝切り機
方法程度	・田面に小さなひびが入り、足跡が軽くつく程度まで干す。 ・砂質田や作土層が浅い場合は、やや小さいひびが入るまで干す。 ・湿田や作土層が深い場合は、大きなひびが入るまで干す。 ・いもち病発生時の強い中干しは、発生を助長するので要注意。	・溝の間隔は8～10条おき、溝の深さは10cm以上を確保する。 ・溝は連結し、溝の末端は確実に排水口（落し口）につなぐ。

【中干し後の管理】

中干し後は、まず走り水を行い、根の発生促進や根の健全化に努めましょう。

幼穂形成期以降は、田面を乾かさないように間断灌水で飽水管理*を行い水分と酸素の供給を交互に行うことで根をしっかりと育てましょう。また、出穂期前後14日間は、湛水管理を行ってください。



【病害虫に注意！！！！】

・水稻も夏野菜も生育が進んできて、病害虫が増える時期になってきました。雨の多いこの時期、水稻では、いもち病が発生しやすくなります。野菜では、灰色カビ病やバト病が発生しやすいです。また、気温が上がってくると、アザミウマ・アブラムシ・アオムシ等の害虫が多く発生しますので防除を行いましょう。

問 い 合 わ せ 先

わたしたちは農業、くらしのパートナー。
元気な農業、元気な暮らしを応援します。

加西営農生活センター
TEL0790-47-1286

三木営農生活センター
TEL0794-82-6150

小野営農生活センター
TEL0794-63-6905